

“2020年”に向けた 三鷹市の基本方針

～ラグビーワールドカップ2019、
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に～

平成29年3月
三鷹市

I 策定にあたって

世界最大の平和の祭典であるオリンピック・パラリンピック競技大会の開催は、あらゆる人々がスポーツに親しみ、夢や希望を持つ機会を広げ、スポーツの普及と発展に大きく寄与する可能性を有しています。また、開催地となる東京には、国内外から多くの競技関係者や観光客が訪れることも予想されるため、経済や観光、国際交流、文化教育など、さまざまな分野への波及効果も期待できます。

三鷹市は、開会式・閉会式などが行われる「新国立競技場」からのアクセス条件も良く、多摩地域での大会会場である「東京スタジアム」及び「武蔵野の森総合スポーツプラザ」にも隣接しています。さらに「東京スタジアム」では、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京 2020 大会」という。）の前年に開催されるラグビーワールドカップ 2019 の開会式と開幕戦も予定されており、三鷹市周辺では、2年続けて世界最大級のイベントが開催されることとなります。

三鷹市は、観光面においても「三鷹の森ジブリ美術館」や「国立天文台」などといった人気スポットをはじめ、「都立井の頭恩賜公園」や「大沢の里」などの緑豊かな自然環境も数多く備えています。さらに、太宰治や山本有三などの多くの著名な文学者が住んだまちとして、市内各所にゆかりの場所が残っています。

こうした特性を最大限に生かしながら、東京 2020 大会等の成功はもとより、大会を契機に社会に生み出される持続的な効果が、大会終了後もレガシー（未来への遺産）として残るよう、取り組みの骨格となる基本方針をとりまとめました。この方針を踏まえ、三鷹のまちの更なる発展のため、大会後も見据えた取り組みを進めていきます。そして、大会を契機に得る貴重な財産を確実に未来に引き継いでいきます。

開催概要

1 ラグビーワールドカップ 2019（第9回大会）

開催期間：2019年（平成31年）9月20日（金）～11月2日（土）

参加国：20チーム（48試合）

2 東京 2020 大会

(1) 第32回オリンピック競技大会

開催期間：2020年（平成32年）7月24日（金）～8月9日（日）

競技数：33競技

(2) 東京 2020 パラリンピック競技大会

開催期間：2020年（平成32年）8月25日（火）～9月6日（日）

競技数：22競技

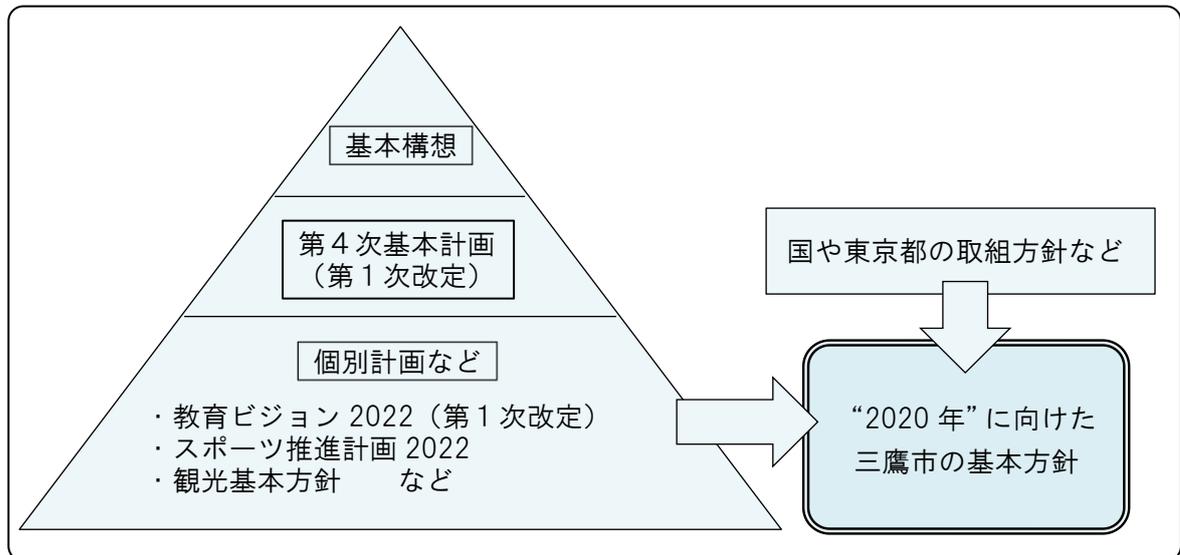
※ 開催概要は、いずれも平成 29 年 3 月時点

II 方針の位置付け

三鷹市では、基本構想で示す基本目標を実現するため、第4次基本計画（第1次改定）や各個別計画などに基づき施策を推進しています。「“2020年”に向けた三鷹市の基本方針～ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に～」は、これらの方向性を踏まえ、東京2020大会等に向けた市の基本的な考え方をまとめたものです。

また、平成27年11月27日に閣議決定した「2020年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針」や、平成27年12月22日に東京都が策定した「2020年に向けた東京都の取組～大会後のレガシーを見据えて～」等との整合性を図った上で、三鷹市の実情を踏まえた3つの基本目標を設定し、取り組みを推進していくこととします。

《三鷹市における方針の位置付け（イメージ図）》

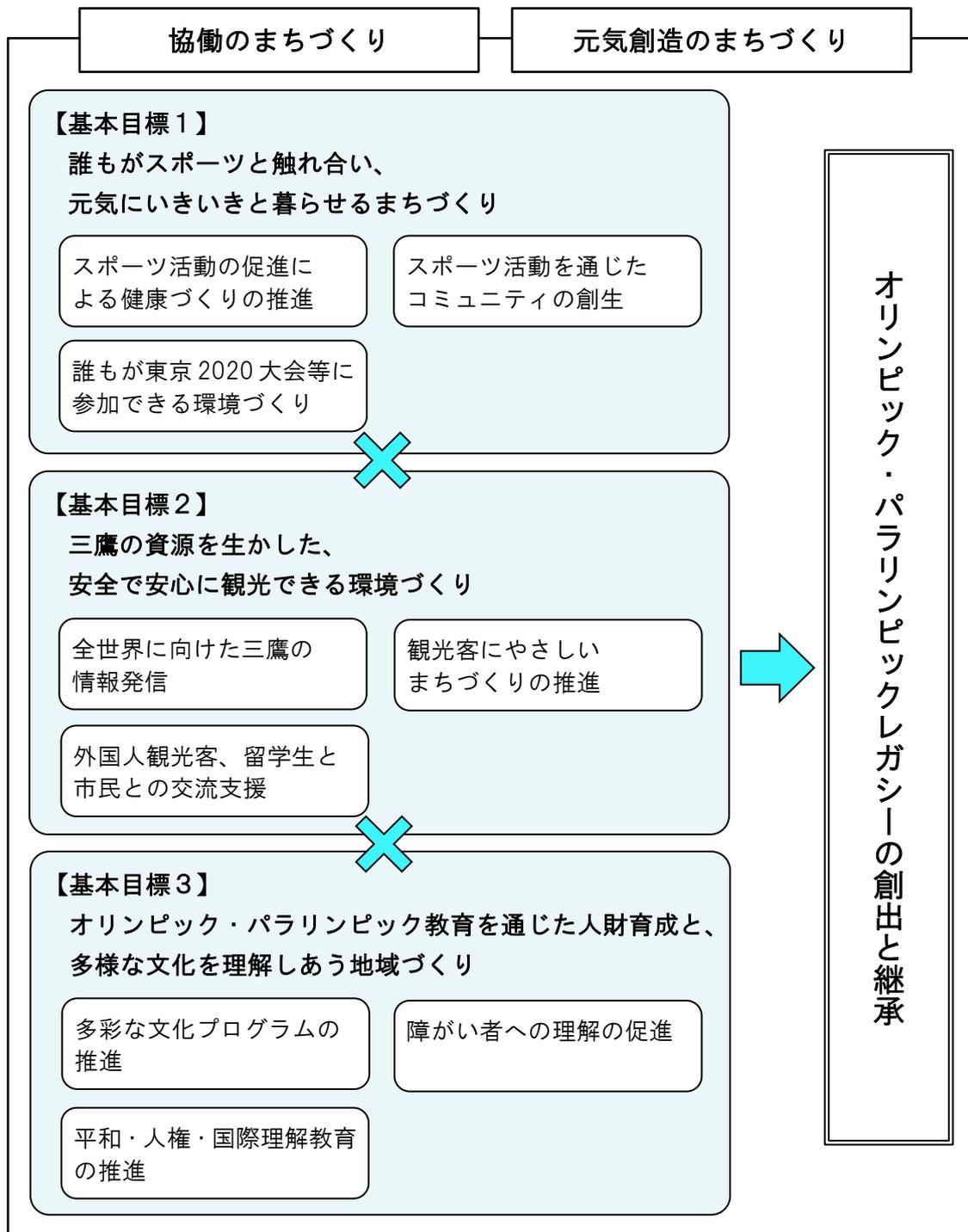


《「2020年に向けた東京都の取組」における8つのテーマ》

- ① 競技施設や選手村のレガシーを都民の貴重な財産として未来に引き継ぎます
- ② 大会を機に、スポーツが日常生活にとけ込み、誰もがいきいきと豊かに暮らせる東京を実現します
- ③ 都民とともに大会を創りあげ、かけがえのない感動と記憶を残します
- ④ 大会を文化の祭典としても成功させ、「世界一の文化都市東京」を実現します
- ⑤ オリンピック・パラリンピック教育を通じた人材育成と、多様性を尊重する共生社会づくりを進めます
- ⑥ 環境に配慮した持続可能な大会を通じて、豊かな都市環境を次世代に引き継いでいきます
- ⑦ 大会による経済効果を最大限に生かし、東京、そして日本の経済を活性化させます
- ⑧ 被災地との絆を次代に引き継ぎ、大会を通じて世界の人々に感謝を伝えます

Ⅲ 三鷹市の基本方針

三鷹市では、東京 2020 大会等に向けた気運を醸成するため、3つの基本目標のもとに9つのテーマを定め、幅広い視点から事業を展開していきます。こうした事業に基づき、オリンピック・パラリンピックレガシーの創出と継承が図られるとともに、「協働のまちづくり」を基礎として、「元気創造のまちづくり」をめざします。事業の実施に当たっては、それぞれの施策の相乗効果により、成果が最大限に発揮されるよう、「(公財)三鷹市スポーツと文化財団」や「NPO 法人みたか都市観光協会」、「(公財)三鷹国際交流協会」のほか、関係する自治体等と協働で各事業を進めていきます。



基本目標 1

誰もがスポーツと触れ合い、元気にいきいきと暮らせるまちづくり

- ・ スポーツ活動の促進による健康づくりの推進
- ・ スポーツ活動を通じたコミュニティの創生
- ・ 誰もが東京 2020 大会等に参加できる環境づくり

1 取り組み概要

スポーツに親しみ体を動かすことは、体力の向上やストレスの発散、生活習慣病の予防など、心身両面にわたって大きな効果があります。また、スポーツには、関わる人々の連帯感を生む力や、夢や感動を与える力があり、活力ある地域社会の形成に大きく貢献します。東京 2020 大会等を契機に、こうしたスポーツの魅力を改めて認識するとともに、希望する誰もが東京 2020 大会等に参加できる環境づくりに取り組みます。

平成 29 年 4 月には、市民の元気創造拠点として「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ」がオープンします。同施設をはじめ、市内スポーツ施設を有効に活用しながら、高齢者や障がい者も含め、すべての市民が気軽にスポーツを楽しめる環境づくりをさらに推進し、日常生活にスポーツが溶け込むことで、誰もがいきいきと豊かに暮らせる健康長寿社会の実現につなげます。また、スポーツを通じた仲間づくりや、競技運営のサポート等に携わるボランティア活動を支援することなどによって多世代交流を深め、地域の活性化につなげます。

2 具体的な取り組み例

- ◇ オリンピアン・パラリンピアンによるスポーツ教室などの実施
- ◇ 事前キャンプの受入に向けた取り組み
- ◇ スポーツボランティアの育成・活動支援



総合スポーツセンター



府中・調布・三鷹ラグビーフェスティバル

3 未来像・レガシー

東京 2020 大会等をきっかけに、スポーツを通じた市民同士の交流の深化による「コミュニティ創生」や、高齢者、障がい者を含めたすべての市民の生活の中で、スポーツを取り入れる習慣が定着することで、住み慣れた地域でいつまでも元気にいきいきと暮らすことができる「健康長寿社会」の実現をめざします。

基本目標 2

三鷹の資源を生かした、安全で安心して観光できる環境づくり

- ・全世界に向けた三鷹の情報発信
- ・観光客にやさしいまちづくりの推進
- ・外国人観光客、留学生と市民との交流支援

1 取り組み概要

東京 2020 大会等では、国内外問わず、多くの観光客が訪れることとなります。三鷹市では、「新国立競技場」からのアクセス条件の良さや、多摩地域の大会会場である「東京スタジアム」及び「武蔵野の森総合スポーツプラザ」に隣接する好立地を最大限に生かすとともに、「三鷹の森ジブリ美術館」などの観光資源をはじめ、自然、文化といった三鷹のまちの魅力について積極的に発信し、多くの観光客を呼び込みます。

また、ホスピタリティあふれる魅力的なまちとして、会場までのアクセスや観光スポット周辺の多言語化など、外国人が利用しやすいまちづくりを進めていきます。

さらに、外国人観光客や留学生を対象に、和文化体験などによる市民交流事業を開催し、日本文化に触れる機会を創出するとともに、東京 2020 大会に向け、国内外の観光客に対し、観光案内や交通案内を行う「都市ボランティア」などに市民が気軽に参加できる環境づくりを進めます。

2 具体的な取り組み例

- ◇ 近隣市等と連携による和文化体験サービスや外国人が利用しやすい飲食店の創出
- ◇ 案内標識や歴史・文化・自然案内板、一時避難場所案内図等の多言語化
- ◇ 国内外に向けた三鷹の魅力の発信の充実
- ◇ 東京都が実施する「都市ボランティア」活動との連携
- ◇ 関係機関との連携による武蔵野の森公園周辺の自転車推奨ルートの整備



市内案内標識の多言語化



都立井の頭恩賜公園

3 未来像・レガシー

外国人、日本人や留学生の家族といった多くの観光客が、大会終了後もリピーターとして訪れることによる「地域活性化」をめざします。また、東京 2020 大会等を契機に整備したまちづくりの取り組みにより、三鷹らしい景観づくりが一層推進するほか、「都市ボランティア」として活動した方が自主的に継続して活動できる環境をつくることで、まちの活力やにぎわいをもたらします。

基本目標3

オリンピック・パラリンピック教育を通じた人財育成と、 多様な文化を理解しあう地域づくり

- ・ 多彩な文化プログラムの推進
- ・ 障がい者への理解の促進
- ・ 平和・人権・国際理解教育の推進

1 取り組み概要

世界規模のスポーツ大会であるオリンピック・パラリンピック競技大会は、スポーツのみでなく、全世界との交流を可能にする文化の祭典でもあります。「文化の薫り高い三鷹」をめざした芸術・文化事業など、東京2020大会に関連して多彩な文化プログラムを展開し、三鷹の文化を「見る・聞く・体験する」機会を積極的に創出します。

また、全ての人々の基本的人権を保障し、人種、国籍、性、信条、障がいの有無、社会的身分などによるあらゆる差別の解消を基本原則として、平和・人権・国際化の一層の推進を図ります。

東京2020大会等が東京都で開催されることは、子どもたちの教育においても、またとない絶好の機会です。市内すべての小中学校において、『「東京都オリンピック・パラリンピック教育」実施方針』の基本的枠組である「4つのテーマ（オリンピック・パラリンピックの精神、スポーツ、文化、環境）」と「4つのアクション（学ぶ（知る）、観る、する（体験・交流）、支える）」を組み合わせた多彩なオリンピック・パラリンピック教育を実施し、次代を担う子どもたちに、ボランティアマインド、障がい者理解、平和の希求、人権の尊重、豊かな国際感覚などの資質を育成していきます。

2 具体的な取り組み例

- ◇ 三鷹ゆかりの文化人の顕彰事業や国際交流事業など、文化プログラムの展開
- ◇ オリンピック・パラリンピックに関連付けた授業展開
- ◇ 東京都パラリンピック体験プログラム「NO LIMITS CHALLENGE」の実施



オリンピックによる体操授業



NO LIMITS CHALLENGE 展示イメージ

3 未来像・レガシー

東京2020大会を契機に実施する多様な文化プログラムを経て、多様性を尊重する意識と国際交流の推進をめざします。また、オリンピック・パラリンピック教育を推進し、一人ひとりの心と体に人生の糧となる貴重な体験を通じることで、次代を担うすべての子どもたちの人財育成をめざします。

IV 推進にあたって

1 推進体制

三鷹市では、この基本方針を円滑に推進していくため、市長を本部長、スポーツと文化部担当副市長を本部長代行、総務部担当副市長及び教育長を副本部長とする「三鷹市東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会等推進本部」を設置し、同推進本部を中心に、全庁一丸となって東京 2020 大会等に向けた取り組みを実施していきます。

2 スケジュール

年度	月	主なスケジュール、イベント等	スポーツ・健康	観光	教育・文化
2016 年度	5 月 8～9 月	ラグビーフェスティバル 2016 リオ大会	誰もがスポーツと触れ合い、元気にいきいきと暮らせるまちづくり	三鷹の資源を生かした、安全で安心して観光できる環境づくり	オリンピック・パラリンピック教育を通じた人財育成と、多様な文化を理解しあう地域づくり
	3 月	基本方針の策定			
2017 年度	4 月	総合スポーツセンター開設、 スポーツと文化部設置			
	4～5 月	フラッグツアー			
	5 月	ラグビー組合せ抽選会			
	10 月 2 月	東京 2020 大会開催 1000 日前 平昌オリンピック			
2018 年度	7 月 9 月	東京 2020 大会開催 2 年前 ラグビーW杯開幕 1 年前			
	2019 年度	7 月 9～11 月	東京 2020 大会開催 1 年前 ラグビーW杯		
2020 年度		4 月 7～9 月	東京 2020 大会開催 100 日前 東京 2020 大会		
	2021 年度 以降		レガシーの創出と継承		



HOST CITY

三鷹市周辺で開催予定の東京 2020 大会の競技種目

- 1 武蔵野の森総合スポーツプラザ
 - (1) 第 32 回オリンピック競技大会
バドミントン
近代五種（フェンシング）
 - (2) 東京 2020 パラリンピック競技大会
車椅子バスケットボール

- 2 東京スタジアム
 - (1) 第 32 回オリンピック競技大会
サッカー
近代五種（水泳、馬術、ランニング、射撃）
7人制ラグビー

※ いずれも平成 29 年 3 月時点